

報道発表資料
平成26年7月25日
福岡管区気象台

高解像度降水ナウキャストの提供を開始します

気象庁は、降水域の分布を高い解像度で解析・予測する「高解像度降水ナウキャスト」の提供を、平成26年8月7日（木）13時から開始します。

新たに提供する「高解像度降水ナウキャスト」では、30分先までの5分ごとの降水域の分布を250m四方（従来の降水ナウキャストでは1km四方）の細かさで予測し、5分間隔で提供します。

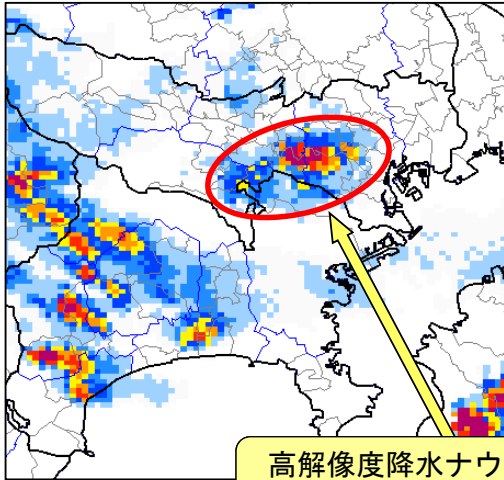
この新たな情報を実現するため、気象庁では、平成24年度から全国20カ所の気象ドップラーレーダーの処理装置を順次更新整備し、降水強度の観測を250m四方のデータとして処理できるよう機能を強化するとともに、強い降水域の解析・予測技術の開発を進めてきました。

また、今回の高解像度化に当たっては、気象ドップラーレーダーのデータに加え、気象庁・国土交通省・地方自治体が保有する全国約10,000カ所の雨量計の観測データ、ウィンドプロファイラやラジオゾンデの高層観測データ、国土交通省XRAINのデータも活用し、降水域の内部を立体的に解析することにより、精度向上を図っています。

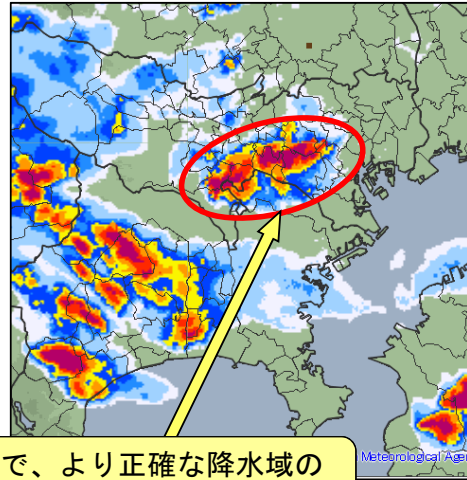
高解像度降水ナウキャストの解析例

(東京都内で大量の降ひょうがあった平成26年6月24日14時40分)

従来の降水ナウキャスト



高解像度降水ナウキャスト

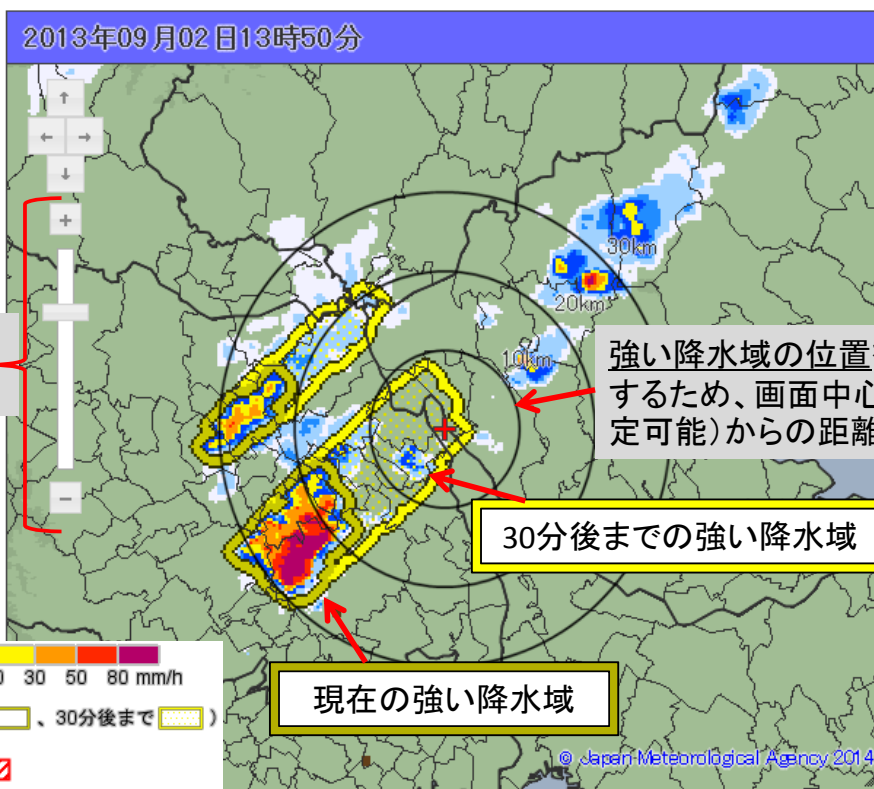


高解像度降水ナウキャストで、より正確な降水域の移動や発達・衰弱の把握が可能

	従来のナウキャスト	高解像度降水ナウキャスト
解像度 (予測の細かさ)	60分先まで: 1kmメッシュ	30分先まで: 250mメッシュ 35~60分先: 1kmメッシュ
予測時間	5分ごとに1時間先まで	
発表間隔	5分	

気象庁ホームページの表示イメージ

1枚の画像で現在と将来の降雨状況の把握が可能



拡大・縮小が可能

強い降水域の位置を分かりやすくするため、画面中心(利用者で設定可能)からの距離を表示可能。

30分後までの強い降水域

現在の強い降水域



スマートフォン用のページも用意